道路事業事前評価調書

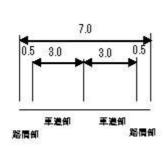
路線・河川等名		主要地方道枚方亀岡線 事業名 防災・安全対金事業 補助・単独の別 補助						
事	業 主 体	京都府事業箇所(区間) 亀岡市下矢田町 地内						
事業概要	目 的	主要地方道枚方亀岡線(下矢田)は、亀岡小学校の通学路に指定されているが、歩道が未整備であるため歩行者・自転車と通過車両が錯綜し、非常に危険な状況となっている。亀岡市通学路交通安全プログラム(亀岡小学校)に基づき、歩道の整備を行うことにより、通学児童等の安全な歩行空間の確保を目的とする。						
	内 容	整備延長: L=560m 現況幅員: W=7.0m 2車線、 歩道: なし 計画幅員: W=6.0m(12.0m)2車線、 歩道: 両側2.5m 事業費 :約4.3億円						
	上位計画等	明日の京都 (中期計画)、 社会資本総合整備計画 通学路交通安全プログラム (亀岡市)						
	スケジュール	着手年度:平成30年度 完成目標:平成34年度						
事業の必要性	事業を巡る ○自転車交通量 47台/12時間(H27センサス) 社会経済情 ○歩行者交通量 136人/12時間(H27センサス)							
事業の有効性	事業の効果 再業の効果 及び費用対 便益等 ○新設歩道の整備により、通学路の安全性を向上させ、歩行者・自転車及 自動車交通の安全性を向上させる。 ○バリアフリー構造の歩道とし、誰もが安心・安全で円滑に移動できるが 空間を確保する。							
事業の効率性等	コスト縮減 代替案立案 等の可能性 及び良好な 環境形成・ 保全	○バリアフリー構造の歩道として整備し、歩行者及び自転車の交通環境が改善される。○歩道を設置し歩車分離とすることで、歩行者・自転車及び自動車双方の交通環境が改善される。○二次製品の使用を促進しコスト縮減を図る。						
	総合評価	本事業は、通学路における児童及び歩行者の安全性の向上を図るために、新規着手の必要がある。						

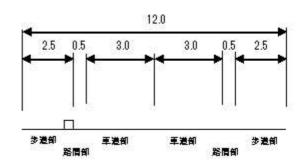
【位 置 図】



【現況横断図】(単位m)

【計画横断図】(単位m)





【現 況 写 真】 写真②

写真①





通学路となっているが、歩道がなく路肩も狭いため、歩行者の安全性が確保できていない。

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

「成」シスパチ末時心の										
					作成年月日		平成30年 5月 2	10日		
					作 成 部 署 建設交通部道路管理課			里課		
事	事業名 枚方亀岡線防御			災•安全交付金事業		京	京都府亀岡市下矢田 地内			
概算	概算事業費 約4.3億円				事業期間		平成30年度~平成34	年度~平成34年度		
事業概要		歩道整備 L=560m W=6.0(12.0)m								
目指すべき 環境像		主要地方道枚方亀岡線(下矢田)は、亀岡小学校の通学路に指定されているなど生活道路としても重要な路線である。このため、歩道の整備を行うことにより、安全で円滑な交通を確保し生活環境の改善を図るものである。								
関連する 公共事業										
	≣ 平	価 項 目		┃ ┃ 施工地の環境特	サーロ語	I==	理控制度、理控制性の			
	主要な	主要な評価の視点		加工地以垛児特	ガはし日信	環境配慮・環境創造の ための措置内容	児島思・ 現児制造の ための措置内容	評価		
地球環境•自然環境	地球温暖等)	也球温暖化(CO₂排出量 等)		道路幅員が独立を発	e	速度抑制及 置により、巨 な交通を確保 排出量の低源	度抑制及び待避所設 より、自動車の円滑	4		
	地形•地	ド・ 地質		単父週に文厚ん り、C O 2 排出			より、自動車の円滑 通を確保し、CO2 量の低減を図る。			
	物質循環	質循環 (土砂移動)		を図る必要 かめ 			重の低減を図る。			
	野生生物	生生物 • 絶滅危惧種								
	生態系	生態系								
	その他	その他								
生活環境	ユニバー	ニバーサルデザイン		10元 単該 単列は	は、歩道が ないため、 引を確保す	バリアフリー構造の歩 道を設置し、誰もが安全 に通行できる歩行空間を 整備する。	リアフリー構造の歩	5		
	水環境•	水環境•水循環		】 竪県C11といる 安全な歩行空間 マル番がまっ						
	大気環境			るで な りめる。 						
	土壌・地	盤環境								
	騒音•振	動	0	事業の実施に	より施工 発生が予 発生を抑	おり	明や夜間の工事を極力	4		
	廃棄物•	リサイクル		頂きれるだめ、		低騒音の建設を	明や夜間の工事を極力 けるとともに低振動、 蚤音の建設機械を使用 る。			
	化学物質	学物質・粉じん等		ייס ב היוין ייס ב היוין		2 O	ν ₀			
	電磁波・	電磁波・電波・日照								
	その他	その他								
地域個性•文化環境	景観		該当なし		該当なし					
	里山の保	里山の保全								
	地域の文	地域の文化資産								
	伝統的行	伝統的行祭事								
	地域住民との協働									
	その他									
外部評価								-		